

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

大学院学生研究

2021年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			文学 研究科	史学専攻	
研究代表者 (2022年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年		氏名			
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年	<input checked="" type="checkbox"/> 博士後期課程 2年	今井 麻美梨			
指導教員	所属部局・職名		氏名			
	文学部・教授		松原 宏之			
自然・人文 ・社会の別	自然	<input type="checkbox"/> 人文	社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人	共同名
研究課題	19世紀アメリカ「公共圏」の再編とジェンダー — リスペクタブルな振る舞いと美德					
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2022年3月現 在のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名			
	文学研究科・史学専攻・博士課程後期 課程・2年		今井 麻美梨			
研究期間	2021 年度					
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 2000,000円 / (採択金額) 2000,000円					

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、19世紀アメリカ合衆国の作家であり社会運動家であったリディア・マリア・チャイルドの家政指南書『儉約する主婦』を政治思想史的観点から分析し、共和主義の「味覚」とおして没落中産階級女性たちが公共圏への参加を図ったことを明らかにした。具体的には、ボストン文学界の作家たちから「上品な味覚が拒絶するような」「下品な」料理レシピと揶揄されたチャイルドの『儉約する主婦』は、むしろ共和主義の美德(質素・儉約・勤勉性)を体現するレシピであり、没落中産階級の女性たちがリスペクタブルな市民として自らを規定するための手段となり得ていたことを指摘した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[公共圏] [リスペクタビリティ] [没落中産階級]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**1. 没落中産階級のリスペクタビリティと、共和主義の「味覚」**

本研究によって得られた成果は以下の3点である。

(1) 19世紀アメリカ合衆国における公共圏の再編とジェンダーに関する研究への貢献

近年の19世紀アメリカ合衆国史では、建国の父らを中心とする上からの政治史研究のみならず、先住民、奴隷、自由黒人、移民、白人女性、若者、労働者などの複数のマイノリティを含む「下からの政治文化史」研究が盛況を見せており、包括的な19世紀のアメリカ社会を描くことが志向されている。しかしこれらの研究では、家庭での文化的振る舞いや、日常生活における感覚(味覚)の形成が、公的社会空間に如何なる影響を及ぼしたかについては十分に論じることができていない。

そこで本研究は、家庭での振る舞いや、料理レシピに見られる味覚の形成がアメリカ市民のシティズンシップと深く関わっていたことに着目し、19世紀アメリカ合衆国における公共圏の再編プロセスを具体的に解明した。

(2) 没落中産階級の心性的不安と、リスペクタビリティの揺らぎ

19世紀前半ボストンでは、資本主義経済への移行とともに新興中産階級が台頭し、彼らは自らの安定した地位や生活様式、および勤勉性やモラルを誇った。従来の家政指南書研究では、こうした新興中産階級の台頭と文化や生活様式の形成に焦点をあてる傾向にあった。

それに対して本研究は、19世紀資本主義経済のもとで投資やビジネスに失敗して借金を抱えた「没落中産階級」の人々に着目した。19世紀アメリカ社会において、破産は単なる経済的没落を意味するだけでなく、共和国市民の美德(質素・儉約・勤勉性)やリスペクタビリティさえも脅かし、モラルや人格の問題と結びつけられて擲擻された。本研究はこうした19世紀ボストン固有の社会経済的背景に着目し、リスペクタブルな共和国市民でありたいと願いつつもそうあれない没落の危機に晒された人々の悲哀に、いち早く応答した家政指南書としてチャイルドの『儉約する主婦』を位置づけた。そして、チャイルドの『儉約する主婦』は単なる節約レシピではなく、共和主義の美德(質素・儉約・勤勉性)や「味覚」の形成を促すことで、没落者たちにリスペクタビリティを獲得・維持させようとした家政指南書であったことを指摘した。

(3) 感性や五感研究とジェンダー史研究との接続 (共和主義の「味覚」への着目)

家政指南書に関する先行研究では、料理レシピや家事アドバイス本に見られる生活様式や文化的規範を分析する一方で、人間の感性や五感のレベルから起こり得る社会的変革については十分に分析を行っていない。

そこで本研究は、近年盛況を見せている五感研究や感性史研究の視点からチャイルドの家政指南書『儉約する主婦』を分析し、共和主義の「味覚」の形成がシティズンシップと絡み合いながら規定されていることを検討した。生き物の臍物を余すことなく用いたチャイルドの『儉約する主婦』は、当時ボストン文学界の書評者たちから「上品な味覚が拒絶するような」「下品な」料理レシピと擲擻された。しかし『儉約する主婦』で紹介される質素で節約的な「味覚」は、むしろ、共和主義の美德である「質素・儉約・勤勉性」やセルフメイドマンシップ、禁欲、自制心、利己心の否定、頭脳の冷静と明晰を体現する料理レシピであった。『儉約する主婦』は、没落中産階級の女性がリスペクタブルな共和国市民として自らを規定するための手段となり得ていたことを指摘した。

研究成果の概要 (つづき)

また申請者は、1. の研究過程でリディア・マリア・チャイルドの育児マニュアル『母親の本』の分析も行い、当初の研究計画を超えた研究成果が得られた(以下参照)。チャイルドの育児マニュアルの分析により、ジェンダーやシテイズンシップのみならず、人間身体における「痛み」の感性の歴史の変遷を観察することができた。その研究成果は、2021年日本アメリカ史学会「自由論題報告」で発表した。

2. 育児マニュアルに見る「痛み」の感性の歴史の変遷：大西洋間の意識変化

子どもの身体は、大人たちの宗教的信念・政治的権力・文化規範・医学や科学の知・近代的家族観が絡み合う複雑な駆け引きのもとに置かれてきた。育児マニュアルは、そうした複数の知のせめぎ合いを観察することができる興味深い一次史料である。

従来 of 先行研究では、育児マニュアルを女性史やジェンダー史の視点から紐解く傾向にあり、アメリカ国内史を前提としてきた。そのため育児マニュアルが、そもそもの人間のあり方を再考する大西洋間の関心のもとで描かれたという点はあまり注目されてこなかった。

そこで本研究は、家庭教育書に見られる体罰をめぐる言説を、アメリカ国内史としてではなく、大西洋間における人間身体のあり方の意識変化に着目して紐解いた。それまで躰(しつけ)の一環として許容されてきた子どもに対する鞭打ちや虐待や暴力が、大西洋の人道主義のまなざしに晒されるなかで「体罰(corporal punishment)」として人々に認識されるようになった歴史の変遷のプロセスを検討した。とりわけ研究では、従来女性史やジェンダー史における「共和国の母」論の視点から分析されてきたリディア・マリア・チャイルドの育児マニュアル『母親の本』を、大西洋の人道主義運動ネットワークや思想的背景のもとで再考した。この研究によって得られた成果は以下のとおりである。

(1) 「痛み」の感性の複層的な変革プロセスの解明

本研究は19世紀大西洋世界における連鎖的な共感あり方とその具体的なプロセスを解明した。既存の権力構造からはあまり注目されてこなかった子どもという主体に着目し、育児マニュアルや児童文学(絵本)を通して再定義される「痛み」の感性を観察した。それらを通して、19世紀の大西洋世界生じた連鎖的・複層的・ダイナミックな感性の変革を解明することに貢献できた。

(2) 既存のジェンダー史・家族史・子ども史と、感性史研究との接続

従来、子育てマニュアル・家政指南書・礼儀作法書などの家庭内書物は、ジェンダー史・家族史・子ども史の枠組みで分析されてきた。それに対して本研究は、子育てマニュアルにおける「痛み」という感性に着目し、人間身体のあり方をめぐる議論に注目することで、既存のジェンダー史・家族史・子ども史を感性史へと接続した。

(3) アメリカ国内史の枠組みを超えた、大西洋史研究への接続

従来 of ジェンダー史・家族史・子ども史研究では、国家史・国内史の枠組みで育児マニュアルを分析し、共和国市民の育成のあり方に注目してきた。

それに対して本研究は、子育てをめぐる議論が国内史にとどまるものではなく、19世紀の大西洋世界に普及していた人道主義運動との関係性の中にあつたことを指摘し、アメリカ国内史の議論を大西洋史へと接合した。

※この（様式2）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

※ホームページ等で公表します。（様式3）

立教SFR－院生－報告

研究発表（研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて研究成果報告書提出フォームより提出してください（紙媒体等、研究成果報告書提出フォームから提出できない場合は、別途リサーチ・イニシアティブセンターへ提出してください）。

①雑誌論文（著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ）

②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）

③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）

④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

※修士論文・博士論文は含みません。

①雑誌論文への投稿（※現在、改稿版の再審査途中）

今井麻美梨「没落中産階級のリスクタビリティと、共和主義の「味覚」－L. M. チャイルド『儉約する主婦』－」『ジェンダー史学』第18号へ投稿。

②図書

該当なし

③シンポジウム・公開講演会等の開催

「アメリカの、そして板橋の民主主義を語ろう－映画『すべてをかけて：民主主義を守る闘い』、くらしにデモクラシー、オンライン zoom、2021年8月29日。

④その他：学会発表

今井麻美梨「アンテベラム期アメリカの家庭教育書にみる体罰・暴力論－人間身体のあり方をめぐる大西洋間の意識変化」、2021年度日本アメリカ史学会第18回年次大会プログラム「自由論題報告」、オンライン Zoom、2021年9月12日。